

# 「自然災害から命を守る～函館大地震発生！～」(10時間扱い)

授業者 鎌田 尚吾

## 1. 社会科の目標・社会的事象の見方・考え方・本単元の目標・育成を目指す資質・能力を踏まえた単元の評価規準

社会科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通し、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。		
	社会的事象の見方・考え方 (小学校)		
	位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して社会的事象を見出し、事象を比較・分類、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること		
	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
	地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。	社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。
本単元の目標	地震が発生したときの人々を守るための関係機関及び人々の協体制や様々な備え、対応について理解するとともに、自分自身の安全を守るための行動の仕方を考える。		
	地域の関係機関や人々は、地震に対し様々な協力をして対処することや、今後想定される災害に対し様々な備えをしていることを理解する。聞き取り調査をしたり、調べたことをまとめたりすることができる。	過去に発生した地震災害、関係機関の協力などに着目して、地震災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現するとともに、災害が起きた時の自分自身の命を守るための行動の仕方を考える。	地震災害から人々を守るための活動に関心をもち、意欲的に調べたり、考えたりする。調べたり考えたりしたことをもとに、日常的な備えや緊急時の対応に生かそうとすることができる。
	評価1	評価2	評価3

## 2. 単元について

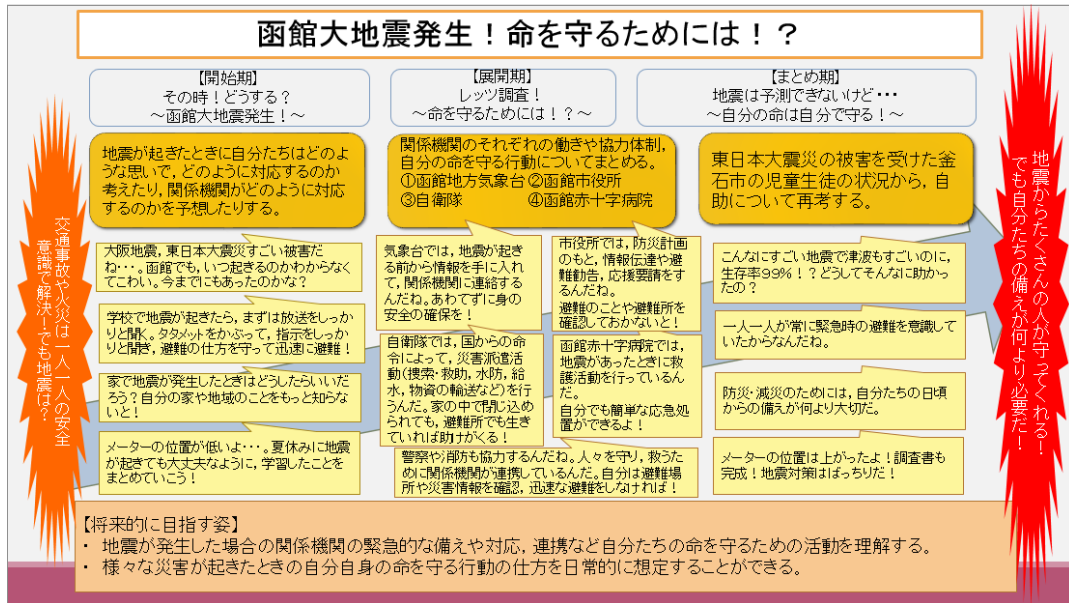
世界的にも地震大国と言われる日本。1993年には北海道南西沖地震（死者・行方不明者 230人）、2011年には東北地方太平洋沖地震〔東日本大震災〕（死者・行方不明者約 22,000人）、2016年には熊本地震（死者 267人）、そして2018年6月には大阪地震（死者 5名）が発生し、多くの被害をもたらした。気象庁HPによれば、2017年(1/1～12/31)には、日本全国で2025回の地震が発生しており(震度4以上は40回)、函館市では震度3以下ではあるが、65回もの地震が発生している。

そのような現状に対して、子供たちが不安や恐怖を増幅することで留まるのではなく、「地震発生時における関係機関が相互に連携して行っている働き」を理解するとともに、「自分自身の行動の仕方」を考え、日常的な備えや緊急時の対応に生かすことができるよう、単元を構想する。

本単元の内容は、新学習指導要領において、第4学年の学習内容に新たに追加されたものであり、教科書を使って学習を展開することが不可能である。そのため、社会科においてこれまで大切にされてきた、「子供自身が切実感をもって課題を設定し、調査し考えていくこと」を実現することができるよう二つの工夫をする。一つは「活用する資料の選定」により、子供たち「問い」をもち、イメージを構築することである。もう一つは「携わる『人』との関わり」によって、実感を伴う体験や聞き取りを行うことである。これらの工夫とともに、協働的な思考活動を通して、概念を形成したり、これからの自分の在り方を考えたりすることができるようにする。子供たちが「事象や人々の相互関係」の視点から、地震発生時における関係機関の働きや協力などの「公助」、自分自身の安全を守る「自助」を考えたりすることで、防ぎようがない地震災害の被害を最小限にし、命を守るための取組や必要なことに気付く姿を目指す。本単元での学びを、自然災害と国土との関連性、国や都道府県のような対策と事業の理解といった5年生の学習にも生かしていきたい。

### 3. 研究との関わり

#### (1) 単元における、資質・能力の育成を支える「学びの文脈」



#### (2) 「学びの文脈」を生み、つなげる具体的手立て 以下下線は、資質・能力とのつながり

##### 手立て① 「え！？」「そうそう！」「学びたい！」を生み出し、イメージを構築するための資料提示

子供たち一人一人が、未曾有の被害をもたらす地震災害における関係機関の協力体制や様々な備え、よりよい自分たちの行動の仕方について主体的に深く考えるためには、学ぶ必要感が必要である。子供たちが問いや意欲を生み出したり、状況を自分ごととしてイメージしたりできるよう、効果的な資料提示（ICTの活用、情報の精選）を行う。

- ◇ 単元の開始期（第1時）では、大阪地震や東日本大震災の映像を視聴し、状況や恐ろしさを実感できるようにする。また日本や函館の地震の多さを示し、いつ起きるかわからない地震発生時の対応について学ぶ必要感を高める。
- ◇ 単元の展開期（第2～8時）及び第9時では、聞き取り調査の中で「人」が話していた災害時の対応の様子がわかる資料を提示することによって、聞いたことと実際の活動をリンクすることができるようにする。
- ◇ 単元のまとめ期（第10時）では、再度東日本大震災の映像を視聴した後、釜石市の被害状況に対して児童生徒の生存率について具体的な数字を示すことで思考のズレを生じさせ、子供たちが問いをもつことができるようにする。

##### 手立て② 「なるほど！」「すごい！」を引き出す、関係する「人」への聞き取り調が

学びと実社会・実生活との結び付きが強い社会科において、現実の問題に直面する「人」との関わりは大切である。子供たちにとって、現在の社会形成に携わっている「人」は貴重な情報源であり、尊敬・憧れの存在である。このような「人」の言葉によって子供たちの学びは充実し、課題に関わる概念を形成することができる。また思いや願いを受け止め、共感することによって、これからの社会や未来の担い手となる基礎を養うこともできると考える。そのため、地震災害時において人々を守り・救う活動をしている関係機関の方への聞き取り調査を4回設定し、働きや協力を学び、人々の思いに触れることができるようにする。

- ◇ 函館地方気象台の人
- ◇ 函館市役所の人
- ◇ 陸上自衛隊の人
- ◇ 函館赤十字病院の人

聞き取り調査の後には振り返りを行い、漠然とした情報や気付きを子供たちが整理・分析したり、共有したりしながら、関係機関の働きや活動を本質的に理解し、概念を形成できるようにする。

##### 手立て③ 「自分は…」「みんなは？」の感情や思考を促す、心情メーターの活用と教師のかかわり

子供たちが様々な情報や思い、考えを交流する糸口として、「地震対策ばっちりメーター」（不安5段階⇔安心5段階）を活用する。メーター上で子供たち一人一人の今の感情を示すことによって、子供たちがその時点での自分の考えを明確にし、「他者の考えを聞いてみたい！」という思いを抱くことができる。単元を通して活用することで、友達や携わる人々の思いや願いに共感したり、自分の思いや考えの変化を実感したりすることもできると考える。

また振り返りでは、子供たちが知識や思考を再構成することができるよう、教師の発問や意図的な補足、板書の構造化によって話し合いの視点を与えたり、方向付けたりしていく。

(3) 「学びの文脈」を重視した単元計画

	学習活動 (○) と子供の姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)
<p>開始期 (1・2時間目)</p>	<p>○ 夏休みの予定や行動を話し合い、交通事故や火災の原因や防ぐ方法について振り返る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>ルールを守らないと事故になるね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>一瞬の油断が火災につながるよ。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content; margin-left: 40px;"> <p>一人一人の意識を変えることが大切だ。</p> </div> <p>○ これまでに日本で起きた大きな地震の映像を視聴し、原因、被害について考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>2011.3.11 東日本大震災</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>1993.7.12 北海道南西沖地震</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>誰のせいでもない気がする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>自然災害は防ぎようがないよね。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>家や道路、橋が壊れ、津波も起きるんだ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>もし、函館でも同じようなことが起きると…ゾッとする。</p> </div> </div> <p>○ 函館で大きな地震が起きたときの自分や関係機関の対応について考え、単元テーマや学習計画を設定する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>緊急地震速報があるよ。聞いたらずぐに避難！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>自分の家の周りは大丈夫？避難場所は？</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>地震を探知する気象台にも行こう！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>夏休みに安心して過ごせるように、まとめよう！</p> </div> </div>	<p>☆ 自然災害発生は、人間の不注意によるものではないことを確認することができるよう、既習内容である交通事故や火災を振り返り、原因について考えることを働きかける。</p> <p>◇ 地震が起きた時の自分自身や関係機関の対応について進んで考えている。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価3</span></p> <p>☆ <u>地震の被害状況をイメージしたり、どのような活動が必要か考えたりすることができるよう、過去の地震の映像を視聴する。</u> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【手立て①】</span></p> <p>☆ <u>単元を通した学びの見通しをもつことができるよう、黒板上で疑問や思いを整理したり、応答しながら、自分自身や関係機関の対応を想起するよう促す。</u> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【手立て③】</span></p> <p>☆ <u>単元を通して、地震対策ばっちりメーターを活用し、子供たち一人一人がどのように思っているか可視化したり、交流のきっかけにしたりする。</u> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【手立て③】</span></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;心情メーターを糸口とした教師の発問&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どうして/どのような思いで、この場所に置いたの？」</li> <li>・「どうして前と変化したの？」</li> <li>・「同じ場所の人たちは同じ思いなの？」など</li> </ul> </div>
<p><b>函館大震災発生！命を守るためには！？</b></p>		
<p>展開期 (3～8時間目)</p>	<p>○ 函館地方気象台の方への聞き取り調査や振り返りをし、調査書にまとめる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>地震が発生する前にわかるんだ。たった1秒でも大事だ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>その前から避難場所をわかっていないと意味がないよね。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content; margin-left: 40px;"> <p>市役所や報道機関に、すぐ情報を発信するんだね。次は市役所の人に話を聞こう！</p> </div> <p>○ 函館市役所の方への聞き取り調査や振り返りをし、調査書にまとめる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>防災計画があるなんて知らなかった。細かいことまで決められているんだね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>避難所生活は大変。守らなければいけないことがたくさんあるんだ。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content; margin-left: 40px;"> <p>大きな災害の時には自衛隊や赤十字病院に連絡して、救助や救護活動を手伝ってもらうんだね。</p> </div>	<p>◇ 函館地方気象台では、地震が発生する前に人々や関係機関に情報を発信していることを理解する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価1</span></p> <p>◇ 函館地方気象台の活動が、迅速な避難や被害縮小に役立っていることを捉え、命を守るために自分に必要な行動を考え、表現する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価2</span></p> <p>☆ <u>地震から人々を守る函館地方気象台の活動を捉えたり、働きを考えたりすることができるよう、聞き取り調査や振り返りを行う。</u> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【手立て②】</span></p> <p>◇ 函館市役所では、地震が発生した際、防災計画のもと現場対策本部を設置し、情報伝達や避難勧告、避難所設置、応援要請などを行っていることを理解する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価1</span></p> <p>◇ 函館市役所の活動が迅速な避難や被害縮小、安全確保に役立っていることを捉え、命を守るために自分に必要な行動を考え、表現する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価2</span></p> <p>☆ <u>地震から人々を守る函館市役所の活動を捉えたり、働きを考えたりすることができるよう、聞き取り調査や振り返りを行う。</u> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【手立て②】</span></p>

- 陸上自衛隊の方への聞き取り調査や振り返りをし、調査書にまとめる。



### 陸上自衛隊

陸上自衛隊では、人を助けに行ったり、いなくなった人を探したりするんだね。

閉じ込められた場合でも、高いところに登って合図をだせば助けしてくれるんだ。

救護は、函館赤十字病院の働きも大きいんだね。

- 函館赤十字病院の方への聞き取り調査や振り返りをし、調査書にまとめる。



### 函館赤十字病院

函館赤十字病院では、けがをした人の救護活動をしに行くんだね。

応急処置の仕方を少しできるようになったよ。他の人の命も救いたい。

警察や消防も救助活動のサポートをするんだね。たくさん関係してる機関があるんだ。



### 警察



### 消防

- 陸上自衛隊では、地震が発生した際、国からの命令によって、探索・救助、水防、給水、物資の輸送などの災害派遣活動を行うことを理解する。【評価1】

- 陸上自衛隊の活動が、人々の安全確保に役立っていることを捉え、命を守るために自分に必要な行動を考え、表現する。【評価2】

☆ 地震の被害を受けた人々を守る陸上自衛隊の活動を捉えたり、働きを考えたりすることができるよう、聞き取り調査や振り返りを行う。【手立て②】

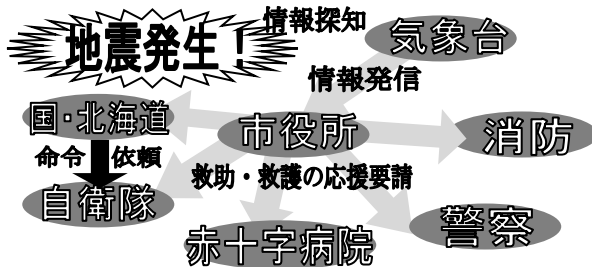
- 函館赤十字病院では、地震などの災害が発生した際に、救護活動を行うことを理解する。【評価1】

- 函館赤十字病院の活動が、人々の安全確保に役立っていることを捉え、命を守るために自分に必要な行動を考え、表現する。【評価2】

☆ 地震の被害を受けた人々を守る函館赤十字病院の活動を捉えたり、働きを考えたりすることができるよう、聞き取り調査や振り返りを行う。【手立て②】

- さらに多くの関係機関が人々を救うために協力していることを実感できるように、既習事項である警察署や消防署、消防団の働きを想起し、災害時における活動を確認する。

- これまでの学習を振り返り、関係機関の働きや連携、自分の行動を考え、調査書をまとめる。



関係機関がそれぞれの役割を果たし、協力しているんだね。

自分の「地震対策ばっちりメーター」は…。

本時

- 東日本大震災における釜石市の小中学生の生存率の高さの理由を考える。

日頃から練習していて、みんながきちんと避難したんだよ。

逃げても津波がくるとあぶない。どこに逃げればいいのかわかっていたのかな。

- 函館市役所の方から話を聞き、自分たちに必要なことについて考える。

いつ地震が起きるかわからない。でもあわてず、自分の意思をもって生き延びたい。

これからも自助の意識をしっかりともち続けたいな。

- 地域の関係機関や人々は、地震に対し、様々な協力をしてきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解し、調べたことや考えたことをまとめることができる。【評価1】

- 地震災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現する。【評価2】

☆ これまでの学習を振り返り、各関係機関の働きや連携・協力を理解することができるよう、活動写真を提示したり、黒板上で関係を図化したりする。【手立て①・③】

☆ 地震の被害状況や迅速な避難に対するイメージがもてるよう、過去の地震の映像を視聴する。【手立て①】

- 災害が起きたときの自分自身の安全を守る行動の仕方を考える。【評価2】

- 調べたり考えたりしたことをもとに、日常的な備えや緊急時の対応に生かそうとする。【評価3】

☆ 地震から自分自身を守るための行動や備えを捉えたり、考えたりすることができるよう、函館市役所の方からお話を聞く。【手立て②】

(4) 本時案 (10/10)

本時の目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の被害を受けた釜石市において生存率 99%を誇った小中学生の当時の避難について考え、函館地方気象台の方から話を聞くことを通して、自助の意識を高める。</li> </ul>	
学習活動 (○) と子供の姿	教師の支援 (☆) と評価 (◇)
<ul style="list-style-type: none"> <li>単元テーマやこれまでの学習を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>函館地方気象台、函館市役所、陸上自衛隊、函館赤十字病院など、関係機関が人々を守ってくれるよ。</li> <li>函館市の地震対策はばっちりだ。自分のメーターも上がってきたよ。みんなのほうかな？</li> </ul> </li> <li>東日本大震災の被害状況を映像で視聴し、釜石市の小中学校に通う子供たちの生存率について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>前も見たけど本当に二度と起きないでほしい。被害を減らすことはできるけど、なくすことは無理。</li> <li>死者・行方不明者約 22000人！釜石市では 1000 人以上…。やっぱりメーターを下げようかな…。</li> </ul> </li> </ul> <p>小中学生なら、逃げ遅れて助からなかったんじゃないかな。</p> <p><b>釜石の奇跡, 生存率99%!</b></p> <p><b>どうして釜石市の小中学生は、ほとんどの人が助かったの？</b></p>	<p>教師の支援 (☆) と評価 (◇)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ <u>これまでの学びを振り返ることができるよう、「地震対策ばっちりメーター」の位置や地震対策に対する思いを確認したりする。</u> 【手立て③】</li> <li>☆ <u>地震の被害状況や迅速な避難に対するイメージがもてるよう、実際の地震の映像を視聴する。</u> 【手立て①】</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>☆ <u>生存率 99%の高さを実感することができるよう、釜石全体や他地域との比較をする。</u> 【手立て①】</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>釜石市の小中学校に通う多くの子供が命を落とさなかった理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>自衛隊がすぐに助けにきたのかな。</li> <li>すぐに警報がなって、地震を知らせてくれたのかもしれないよ。</li> <li>きっと日頃から練習していて、みんながきちんと避難したんだよ。</li> <li>逃げて津波がくるとあぶない。どこに逃げればいいのかわかっていたのかな。</li> </ul> </li> <li>函館地方気象台の方からのお話を聞き、自分たちに必要なことについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から地震に対する備えがあったんだね。何回も避難訓練をしていたんだ。</li> <li>釜石の実績といえるなんて、すごいな。函館の実績、附属の実績を目指したい。</li> <li>いつ地震が起きるかわからない。でもあわてず、自分の意思をもって生き延びたい。</li> <li>これからも自助の意識をしっかりともち続けたい。水の確保も大切なんだね。</li> </ul> </li> </ul> <p>釜石の子供たちは…。皆さんも…。</p> <p><b>一人一人の「自助」の意識があれば、助かる!</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 今までの学びを生かし、自分なりに考えることができるように、既習内容を確認するよう働きかける。</li> <li>☆ <u>自助に意識が向くように、応答したり自助と公助を分類して黒板上に位置付けたりする。</u> 【手立て③】</li> <li>◇ 災害が起きたときの自分自身の安全を守る行動の仕方を考える。 【評価2】</li> <li>☆ <u>地震から自分自身を守るための行動や備えを捉えたり、考えたりすることができるよう、函館地方気象台の方から自助についての話を聞き、再考することを促す。</u> 【手立て②】</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>本時や単元の学びを振り返り、調査書にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>やはり一人一人の意識が大切。自分の命は自分で守る。</li> <li>地震対策はばっちり！メーターも一番上まで上がったよ！</li> <li>地震対策はわかったけど、やっぱり地震は怖い。</li> <li>メーターは上がっていないけど、何をすればいいかはきちんとまとめることができた。夏休みは大丈夫！</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 調べたり考えたりしたことをもとに、日常的な備えや緊急時の対応に生かそうとする。 【評価3】</li> <li>☆ <u>学びの成果を実感し、これからの生活に必要な備えや緊急時の対応について考えたことを調査書にまとめることができるよう、再度メーターの位置や子供たちの思いを確認する。</u> 【手立て③】</li> </ul>